

地域がん診療連携拠点病院の 指定更新を受けて

この度、当院は地域がん診療連携拠点病院の指定を更新することができました。

指定要件が一層厳しくなる中で、更新を果たせたことは非常に意義深く、職員の努力が一定の評価を受けた証しであると考えています。

一方、当院に求められるがん診療機能をハード面から考えた時、現在の外来治療室（化学療法室）の狭さが問題となってきました。抗腫瘍薬の種類と使用方法がますます多様化するとともに、通院治療への要望も高まっています。

幸い、地域医療介護総合確保基金への申請が認められ、「がん患者支援棟」（仮称）を新たに建築できる予定となりました。近日中に付帯工事から始め、来春のオープンを目指しています。患者の皆様にも少しでも快適に治療を受けていただけるよう、外来治療室を拡充するとともに、ペインクリニック・緩和ケアに対応できる専用診察室の整備、さらにがん相談支援センターの相談機能を高めるために相談室の増設を予定しています。

地域がん診療連携拠点病院の指定更新を受けて	1
厚生病院健康公開講座開催報告 11月11日（日）開催「生活習慣病とがん」 3月3日（日）開催「鳥取県がんフォーラム」	2 3
医療型ショートステイについて	4
臓器移植シミュレーション	4
初開催！家族の参観日	4
今やMAさんは医師の片腕です！	5
これからよろしくお願ひします	5
新任部長等からごあいさつ	5~7
新任医師紹介	7~8
退職・異動者の紹介	8

これらのハード面の整備も必要ですが、すべての職員が心のこもった質の高いサービス提供を常に意識しながら日々の業務に取り組むことが最も重要であることは変わりません。

昨年は地域医療支援病院の指定を受けることができました。

また、災害拠点病院としての機能向上のため訓練も重ねています。

地域医療圏において果たすべき当院の役割がますます大きくなる中で、より一層地域の皆さんから信頼され安心して安全な医療を提供できる病院を目指したいと思います。

院長 皆川 幸久

基本理念

思いやりと優しさ、真心のこもった信頼される病院
優れた医療を提供し、地域と密着した病院
職員の和を尊び、働きがいのある病院

健康公開講座開催報告

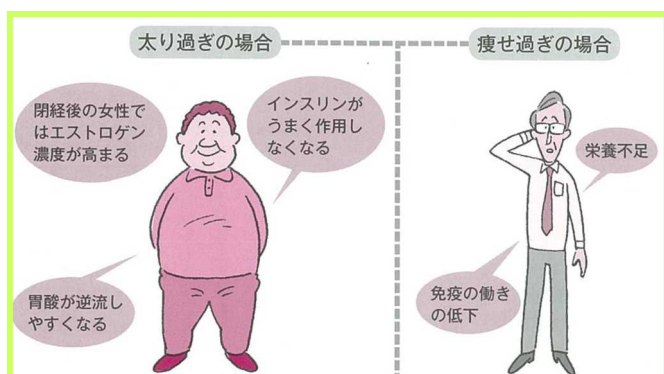
11月11日（日）開催 「生活習慣病とがん」

◆講演1「糖尿病とがん」

内科 村脇あゆみ医長

糖尿病は大きく4つに分類できます。そのうちのひとつである2型糖尿病の方は、そうではない方と比べて20%ほどがんの発症率が高いことが報告されています。日本人では特に大腸がん、肝臓がん、膵臓がんのリスクが高いとされています。2型糖尿病の方でがんリスクが高まる理由としては、血液中のインスリン濃度が高いこと、血糖値が高いことに起因する慢性炎症などが原因ではないかと考えられています。2型糖尿病の方の多くは、インスリンが効きにくくなっているために血液中のインスリン濃度が高くなっています。過剰なインスリンは発がんに関与する可能性があると考えられています。ただし、インスリン注射による発がんが増えることは否定されています。

2型糖尿病は生活習慣病といわれているくらいですので、生活習慣と密接な関係がありますが、がんも生活習慣と無関係ではありません。がんの予防のためには、健康的な食事、運動、体重管理、禁煙、節酒が大切です。2型糖尿病の方についていえば、血糖管理の改善だけでなく、がんの予防にもつながる可能性があります。



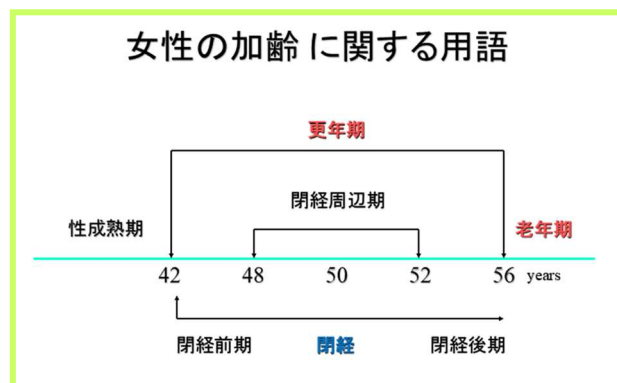
がんの早期発見には、糖尿病のための内科定期受診だけでは安心してはいけません。糖尿病の管理目的の外来検査はがんの早期発見はできません。2型糖尿病の方は積極的に、市町村によ

り行われている年1回のがん検診を毎年うけましょう。

◆講演2「中高年女性の健康と婦人科がん」

皆川幸久院長

女性の一生には更年期・閉経期という時期があり、老化現象が男性とは異なっています。



婦人科で取り扱う主ながんとして、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんが知られています。このうち、子宮体がん、卵巣がんは更年期以降に発生しやすいとされ、特に子宮体がんの増加傾向が指摘されています。また、肥満との関連が強い子宮体がんの少なくとも一部は更年期以降の女性の生活習慣病としてとらえることができます。

女性により良い健康的な生活を送っていただくためには、婦人科がん、特に子宮体がんの予防と早期発見が重要です。「肥満に注意し、よく歩き、検診を受ける」こと。最も重要なのは肥満の予防です。

生活習慣病を起こしやすいライフスタイル

- あまり運動しない
- 太っている
- 油っぽい食事が好き
- 生活が不規則
- よく眠れないことがある
- 何でも話せる友人がいない
- くよくよ悩みがち

3月3日（日）開催

鳥取県がんフォーラム「外来がん薬物療法の副作用対策」

第一部 特別講演

「がん薬物療法の効果を高める支持療法」

香川大学医学部臨床腫瘍学講座 辻晃仁教授

がんの治療法には外科的治療（手術療法）、放射線治療、抗がん剤療法（化学療法）などがあります。

抗がん剤の治療は怖い、きついというイメージがあるかもしれませんが、最近は副作用を抑える薬が非常に進歩しました。また、遺伝子検査をし、効く薬を選択することが可能になってきました。抗がん剤による毒性が出ないように治療するのではなく、毒性で困らないように支持療法を行うことで最大の治療効果が得られるのです。

そのためには薬の減量、休薬、治療薬剤の変更などの理由をはっきりさせることがポイントになります。また、その際、ご本人・ご家族が安心できるよう説明をすることが大切です。

毒性が出たときは無理せず休薬し、慌てて再開せず回復までしっかり待つことが大切です。よりよい支持療法のもとで、レベルの高い治療を安全に使いこなし、最高の結果を得ましょう。

第二部 外来がん薬物療法の副作用対策

第二部では、県内のがん診療連携拠点病院が各施設での取り組みについて発表しました。

がん再発防止の薬物療法は予定どおりに投薬を続けることが重要ですが、投薬期間が長期に及ぶこともあり、副作用を適切に把握できなければ継続することが困難になります。

副作用の把握やセルフケアの支援をどのように行うのか、セルフケアを阻害する状況を把握・検討し、どのようにアプローチするのか、具体的な事例により各施設の取り組みを知ることができ、今後

の病院での取り組みの参考となる有意義なフォーラムとなりました。

<発表者及び演題>

○鳥取市立病院外科 小寺正人診療局長
鳥取市立病院薬剤部

滝田敬子がん薬物療法認定薬剤師

－乳がんの外来薬物療法の副作用対策－

○米子医療センター化学療法センター

永瀬美沙がん化学療法看護認定看護師

－チームで取り組む

経口抗がん剤の副作用マネジメント－

○鳥取大学医学部附属病院外来化学療法室

平尾敦子がん化学療法看護認定看護師

－FOLFIRINOX療法を受ける患者の

セルフケア支援－

○鳥取県立中央病院中央処置室・外来治療室

安達直美がん化学療法看護認定看護師

－分子標的治療薬の皮膚障害に対して

外来治療室の取り組み－

○鳥取県立厚生病院

杉本咲月がん化学療法看護認定看護師

－皮膚障害のセルフケアの実施が

困難な事例への関わり－

鳥取県立厚生病院消化器外科

安宅正幸医長

－大腸がんの化学療法の副作用について－

支持療法とは…

副作用を予防したり軽減するための治療のこと

医療型ショートステイについて

鳥取県中部で在宅生活をされている医療的ケアが必要な重症心身障がい児の方が多くなっています。しかし自宅以外のところで過ごしていただく場所は少ない状況にあります。

そこで、平日昼間に病棟でショートステイできる体制を準備しました。ショートステイ中はご家族に代わって看護師とヘルパーが協力してケアを行います。これは、障がい者総合支援法に基づく障がい福祉サービスの一つです。こ

れにより、地域での暮らしの一助となり、重症心身障がい児の方の生活の広がりにつながればと思います。

ご利用についてのご相談、申し込みは地域連携センターにお問い合わせください。

看護局副局長 湯浅 良恵

臓器移植シミュレーション

当院は、脳死下臓器提供施設として体制整備をしていますが、案件が発生した場合の迅

速な対応や緊密な連携を図るため、平成30年11月29日に関係者による院内臓器提供シミュレーション会を開催しました。

当日は、想定されるシナリオをもとにマニュアルの対応手順の確認を行いました。

また、鳥取県臓器・アイバンクの鳥取県臓器移植コーディネーターにも参加、ご助言いただき、質疑応答による疑問の解決やマニュアルの見直し箇所の確認、現時点での課題等を明確にすることができ、参加者の理解を深めることができました。

総務課 森田 圭介



初開催！家族の参観日

いつもお世話になっている家族の皆さんへ、病院での仕事を理解し、働く家族を応援していただきたいという願いを込めて家族の参観日を開催しました。

事前に撮影した働く姿の動画を上映したり、様々な職種が体験できるお楽しみコーナーやヘリポート見学など、家族と職員が賑やかに過ごしました。



働く家族への尊敬・応援する気持ちや、自分も将来病院で働きたいという気持ちのこもった手紙を受け取り、職員も活力を得る機会となりました。

人材確保プロジェクトチーム長 小椋 美保子



今やMAさんは医師の片腕です！

MAはMedical Assistantの略で医師事務作業補助者を意味し、今や病院内ではその職種が確立されています。

職務内容は窓口受付業務でもなく会計業務でもありません。医師の医療行為、診療行為に際し、MAは電子カルテを利用して診療オーダーを行い、診療記録をする。そして診



断書などの書類作成を行う事務作業を行います。情報量が増しているため、その事務量は年々増加する一方です。

このような事務作業をリアルタイムに行ってもらうことによって、医師は患者さんに向き合える時間を十分に確保できるのです。そのためMAは外来診察室では医師の傍ら、黙々とタイピングを行っています。

当院では平成20年から配置され現在18名のMAが大活躍しています。今やMAは医師にとって大事な片腕となっています。

副院長 紙谷 秀規

これからよろしくお願ひします

今年度より鳥取県立厚生病院で勤務することになりました。

当院は県中部の医療の中心ということで大きな責任と使命を感じております。

勤務してまだ間もないですが、中部地区の皆様のお役に立てるよう努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

臨床研修・教育センター



左から

竹安医師・山本研修医・藤井研修医・加藤医師

新任局長からごあいさつ

医療局長 岡田 隆好



4月1日付けで医療局長を拝命しました。

医療局は各科医師・研修医総勢51名とMA18名で構成されています。

厚生病院の基本理念である『思いやりと優しさ、真心のこもった信頼される病院』『優れた医療を提供し、地域と密着した病院』『職員の和を尊び、働きがいのある病院』を実践できるように、他部署とも密に連携しながら、開かれた医療局を目指したいと思っています。

西江、澤口両副局長、西原医局長、西村部長(MA担当)、各先生方の協力のもと頑張っていきますので、皆様のご支援をどうぞよろしくお願ひします。

新任部長・室長からごあいさつ

小児科 部長 河場 康郎



4月1日付けで小児科部長を拝命しました。

鳥取県中部地区から岡山県北部も含めて、小児の一般診療から救急診療に携わっております。心臓・神経・内分泌・肝疾患などの専門外来、また、中部地区で唯一小児の入院加療のできる病院として、幅広く対応しております。

当院スタッフのみならず地域の医療機関の方々のご協力と合わせて、小児医療に貢献したいと思っております。皆様方のご支援の程よろしくお願い申し上げます。

整形外科 部長 橋本 達宏



4月1日付けで整形外科部長を拝命しました。

整形外科は主に骨、関節疾患、脊髄、脊椎疾患、外傷一般を扱っておりますが、中部地区の特徴として慢性疾患、脊椎脊髄疾患は三朝温泉病院、全身状態の比較的良好な外傷は清水病院、野島病院ががんばっておられ、多科にまたがる合併症や全身状態の芳しくない方の対応が当院の役目かと考えております。

一時は4名いた整形外科医は2名となり、患者と医者の高齢化が押し寄せておりますが、もうひとがんばりふたがんばり致します。皆様ご協力のほど、よろしく願いいたします。

地域連携センター センター長 三谷 洋子



4月1日付けで地域連携センター長を拝命しました。

地域連携センターは、スムーズな入院を支援したり、病气療養後にスムーズに在宅での生活に戻れるよう、病院職員はもちろん地域の医療福祉関係者との連携を図りながら、入退院支援を行っています。また多職種が連携し、患者・家族の悩みや不安などにも対応しています。

地域連携センターのスタッフ全員で協力しあい、地域のみなさんをサポートしたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

中央検査室 室長 田中 真弓



4月1日付けで中央検査室長を拝命しました。

中央検査室は、迅速で精確な臨床検査結果を提供できるように日々努力しています。また、多職種の方々と連携をとり、医療の質の向上にも貢献しています。

ますます多様化・専門化していく臨床検査業務に対応していくためにも、明るく活気ある中央検査室でありたいと考えています。よろしく願いいたします。

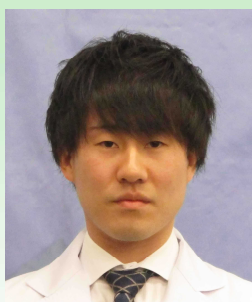
新任医師紹介

【平成31年4月1日採用】



消化器内科

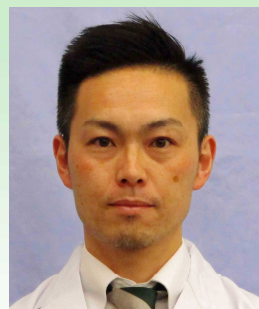
橋本 健志(専攻医)



「ひとこと」
四月より厚生病院へ赴任することになりました。研修医上がりであり、他の病院での勤務も初めてとなります。不慣れた点ばかりで皆様に迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、少しでも病院のお役に立てるように頑張りますのでよろしく願いいたします。

神経内科

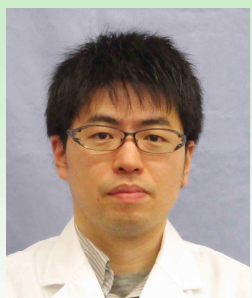
村上 丈伸(医長)



「ひとこと」
約十五年前に勤務したことがあり、当時のスタッフの方々とお互いに認識しあえたことが嬉しかったです。厚生↓鳥大大学院↓ドイツ↓震災後より福島を経て厚生に再上陸しました。座右の銘は「何とかかなる」です。楽しく働ければと思います。よろしく願いいたします。

外科

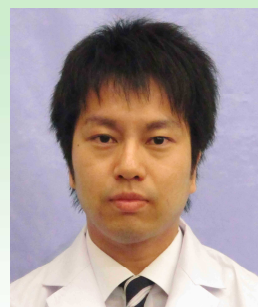
大野 貴志(副医長)



「ひとこと」
三年ぶり、令和の年に厚生病院に赴任いたしました胸部外科の大野貴志と申します。呼吸器、乳腺、甲状腺を中心に診療しております。中部の医療の発展のために引き続き精進してまいります。好きな動物はネコです。よろしく願い申し上げます。

外科

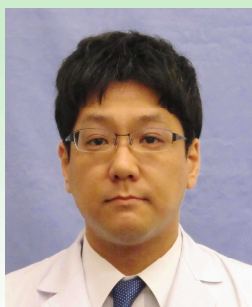
野坂 祐仁(専攻医)



「ひとこと」
はじめまして。四月から厚生病院の外科に赴任してまいりました。卒業四年目の野坂祐仁と申します。米子市の出身で、倉吉市では初めて生活します。皆様のお役に立てるよう頑張りますのでよろしく願いいたします。

泌尿器科

山口 徳也(副医長)



「ひとこと」
四月より厚生病院の泌尿器科で勤務することになりました。久しぶりの泌尿器科常勤医師として、中部地区の泌尿器科医療に貢献できるように頑張りたいと考えています。よろしく願い申し上げます。

小児科

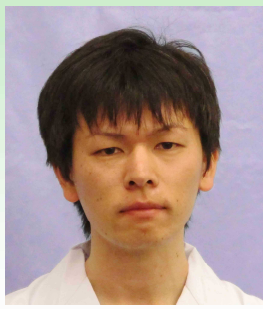
橋田 祐一郎(医長)



「ひとこと」
四月から小児科で勤務させていただきましたこととなりました。専門分野は小児循環器、心エコー、川崎病などです。鳥取県中部の小児医療の活性化のために一生懸命頑張りたいと思いますので今後ともよろしく願います。

消化器内科

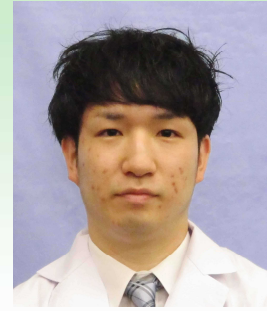
三好 謙一(医長)



「ひとこと」
厚生病院は十年ぶりとなります。この地域は特にウイルス性肝疾患の罹患率が高いため、より多くの患者様の力となるため肝疾患を中心に勉強して参りました。地元の医療発展のために頑張りたいと思います。よろしく願います。

小児科

吉野 豪(専攻医)



「ひとこと」
はじめまして。鳥取大学病院の脳神経小児科から赴任してまいりました。中部地区の子どもたちのお役に立てるよう、精一杯努力します。よろしく願います。

放射線科

松本 顕佑(副医長)



「ひとこと」
四月に厚生病院放射線科へ赴任しました。画像診断に加えて、画像誘導下を行う治療(IVR・インターベンショナルラジオロジー)が専門です。血管内治療、CT・PICC挿入、ドレナージなどお役に立てるかと思えます。どうぞよろしく願います。

小児科

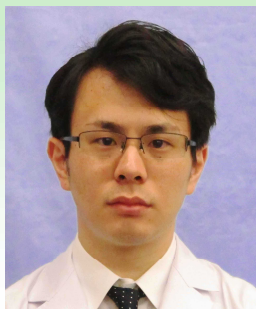
小林 裕貴子(専攻医)



「ひとこと」
鳥取県立中央病院から赴任して参りました。倉吉は初めてですが、少しずつ慣れてきました。県中部の小児医療に貢献できるよう、精いっぱい努力します。よろしく願います。

小児科

木村 昂一郎(専攻医)



「ひとこと」
四月から厚生病院小児科で勤務させていただきましたことになりました。みなさまのお役に立てますよう一生懸命がんばりますのでよろしく願います。

退職・異動者

医師

麻酔科

細田 幸子(一月末付)

消化器内科

加藤 順(三月末付)

外科

松岡 佑樹(三月末付)

小児科

倉信 裕樹(三月末付)

小児科

土江 宏和(三月末付)

放射線科

遠藤 雅之(三月末付)

初期臨床研修修了

高見 飛鳥(三月末付)

長期勤続退職者

看護局

小原 佐智子(三月末付)

中央検査室

松ノ谷 眞智子(三月末付)

地域連携センター

船越 智美(三月末付)

お世話になりました

厚生病院のホームページも、ぜひご利用ください。パソコン、スマートフォンからご覧いただけます。

<https://www.pref.tottori.lg.jp/kouseibyoun/>



編集 鳥取県立厚生病院 広報委員会
発行 鳥取県立厚生病院
〒682-0804 鳥取県倉吉市東昭和町150番地
電話 0858-22-8181(代) ファクシミリ 0858-22-1350